

議 事 録

会議の名称	岩倉市障害者計画推進委員会（令和4年度第2回）
開催日時	令和5年3月1日午後2時から午後3時55分まで
開催場所	岩倉市生涯学習センター研修室1・2
出席者	大藪委員長、水越委員、犬飼委員、関戸委員、伊藤（憲）委員、坂西委員、小倉委員、夏目委員、浜田委員、井上委員、柴田委員、安江委員、山中委員（欠席：石黒委員、伊藤（悟）委員、田代委員）
会議の議題	(1) 障がい者計画及び障がい福祉計画の進捗について (2) 次期障がい者計画及び障がい福祉計画等の策定に係るアンケートの結果報告について (3) 基幹相談支援センターの設置について
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文記録 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の委員長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（書面収集した意見書をまとめている）
会議に提出された資料の名称	（資料1）第5期岩倉市障がい者計画進捗状況シート （資料2）第5期岩倉市障がい者計画進捗状況シート（抜粋） （資料3－1）岩倉市障がい者福祉に関する計画策定のためのアンケート調査概要 （資料3－2）アンケート調査票（障がい者用） （資料3－3）アンケート調査票（障がい児用） （資料3－4）岩倉市障がい者福祉に関する計画策定のためのアンケート調査結果速報 （資料4）基幹相談支援センターの設置について
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

委員長：今回の岩倉市障害者計画推進委員会については、まず現行計画の進捗状況の報告がされる。流れとしては、策定された計画を市が実行し、それを評価し、改善につなげていくというPDCAサイクル手法である。この委員会は、計画の策定だけでなく、こうした評価改善の役割も担っている。この評価が次の計画に繋がっていくので、活発な議論をお願いしたい。

2 議題

（1）障がい者計画及び障がい福祉計画の進捗について

※事務局より資料に基づき説明。

委員長：計画の進捗状況についての説明であった。今年度の取り組みを中心に計画の進捗について意見・質問はあるか

委員：資料2の25番について。サテライト型のグループホーム利用についての記載がある。実績の記載では、就労継続支援のA型事業所に行っている人について記載しているように見えるが実態はどうか。

事務局：実態として、1名の人は就労継続支援B型事業所利用の方である。集団生活に困難がある人が利用しているものである。ある程度生活能力はあったが、独居となり、提案により入居につながった。また、一般就労を目指している人も利用者にいる。自立度は高かったが、独居となったのでこうしたグループホームを提案して入居した。

委員：障がい者計画は令和5年度が最終年度。課題が残っているという項目もあるように見えるが、令和5年度に目標達成するという予定とみてよいのか。

事務局：そのつもりである。改善すべき部分もあるが、目標達成に向けて取り組んでいく。

委員：サービス量の見込みについて。訪問系のサービスについては、見込みに対して実績が大きくなっている。特に行動援護が非常に大きい。実態がどうなのか気になる。

事務局：行動援護という訪問系サービスは行動障害が強い人に対してヘルパーが付いて移動の支援をするというサービスである。今年度については、行動障害が強い人が学校から卒業し、グループホームに居住するようになり、余暇活動等で外出するために利用している。対象の人は若く、ヘルパー1人だと安全面等を鑑みると不足のため、2人介護としている。適正な支給を関係機関と協議しながら確保している。

委員：13番の災害時の地域支援体制の構築について、実際に所属する会で研修会をやって、市役所の福祉課と協働安全課が来て講義があった。わかりやすい説明を受け、良い研修会となった。来た人には聞いてもらえたが、参加していない人に知らせることも大切と思って資料を配布することとした。市と協力して知ってもらうことが重要であると考えている。

委員長：災害時個別避難計画の策定状況はどのようになっているのか。

事務局：避難行動要支援者名簿の登録は千人程度。日常的に名簿登録して地域に情報提供する同意を得ている人がその半分以上である。その中で個別避難計画を立案している人は150人程度である。全体としては15%程度の作成率となっている。自主防災会や民生委員などの地域の人に協力を依頼してきたが、国としても自治体の努力義務として推進している。今後は違う形でも周知を図りながら個別支援計画の作成を進めていきたい。県でも説明会や講演会を実施しているので、情報収集しながら取り組んでいく。

委員長：市が働きかけながら団体と一緒にやっていくことが必要

委員：59番の医療的ケア児に関する支援の具体的な内容などはどのようなものがあるか。

事務局：市の取り組みとしては歯科診療が訪問歯科指導や健診を行っているものの、実績がないため、今後取り組んでいきたい。

委員：就労先の確保についてはどのような状況か。福祉施設からの一般就労の状況は。

事務局：就労移行支援については、見込みを上回っている。事業所も増えており、利用者も増えている。雇用する側についても商工農政課がハローワークと協力して企業を訪問するなどしており、岩倉市商工会とも労働力の確保という面で協力の申し出があったところである。

委員：特別支援校からの卒業生はほとんどが生活支援に進む。一般就労に進みたい希望もあるが、ミスマッチがある場合もある。就労移行支援から一般就労に行った実績では具体的な事項は把握しているか。

事務局：把握はしていない。

委員：就労継続支援の事業所が多くなっているとあるが、コロナの関係もあるのか、実感としてB型事業所の見学者や利用者がそこまで多くなっていないと思っている。現在の岩倉市のA型B型の個所数は。また、利用支援はあるのか。

事務局：A型が2、B型が7か所ある。就労移行支援事業所は0件。圏域で近いところでは江南市や犬山市にある。名古屋駅近くで事業所を開所する例が多いという印象がある。岩倉市は交通の利便性が高いため、利用しやすいのは名古屋駅付近と思う。岩倉市は更生訓練費用と交通費を一部補助しているため、市外の事業所を利用しやすい環境は整備されていると考えている。

委員長：不足はないという認識でよいか。実績はカバーしているのか。

事務局：市内ですべての人をまかなえているわけではないが、市外の事業所も利用できる制度であるので、利用したいけど空きがない等の声は聞いていない。

委員：計画の全体について、いきいきと活動する社会参加の推進という記載があったと思うが、外出が難しい人もいる中で、障がい福祉サービス事業所の利用者に対して、市の図書館が休館日に受け入れてくれたことがあり、喜ばれた。そうした外出の支援

をやっている部分も載せてもらえたら良い。

委員長：図書館の活動としてやっている部分も実績に乗せてほしいとのこと。

(2) 次期障がい者計画及び障がい福祉計画等の策定に係るアンケートの結果報告について

※事務局より資料に基づき説明。

委員：今回のアンケート調査について、調査結果報告の冊子は作るのか。

事務局：作成する。

委員：これから策定する計画にアンケート結果を掲載するのか。

事務局：前回の計画策定時と同様に抜粋という形になるが、掲載する予定である。

委員：今回策定する3つの計画はどのようにまとめるのか。

事務局：障害者計画と障がい者福祉計画等で2冊にまとめる。

委員：策定の基礎数値はどのように把握しているのか。

事務局：計画策定時に把握し、調査結果の抜粋と共に計画に掲載する。

委員長：結果の数値を見ると、65歳以上が7割以上を占めている。障がい毎の回答について見方を変えてみると見えてくるものがあるのではと思う。65歳以上は介護保険優先ではあるが、介護保険にないサービスは障がい福祉サービスで行うといったこともあり、結果によって目標値等を考える際の参考になると思う。

事務局：今回は速報値であり、クロス集計等を経たものについては、別の機会に配布させていただく。

委員：こうした調査をしたのであれば、結果を広報に掲載してほしい。結果を周知することが良い啓発の材料になると思う。

委員長：結果もボリュームがあるため、項目を限定して掲載すると読みやすいものになると思う。

委員：アンケートの回収率が半分しかない。多いか少ないかは見方だが、当事者がどこまで自分のことについて、家族も含めてどこまで関心をもってこのアンケートに回答しているのか。また、アンケート結果をどのように絞り込んで反映させていくのかという課題もあると思った。また、回答の中で、サービスについて知らないという回答が多いとの印象を受けた。市民がこの結果をどう受け止めて地域共生社会の一員としてどうしていくのかということが重要と感じた。

(3) 基幹相談支援センターの設置について

※事務局より資料に基づき説明。

(午後3時55分終了)